

やねだん

～人口300人 ボーナスが出る集落～

今回使用したDVD
の紹介です

鹿児島県鹿屋市の柳谷集落、愛称「やねだん」は、人口300人、うち65歳以上が4割。どこにでもありそうな、高齢化が進む中山間地域の集落でした。

ところが、10年ほどで“地域再生のお手本”として全国から注目される集落に変貌したのです。

「やねだん」が目指したのは、“行政に頼らない地域再生”。集落で労力や経験を提供し合って、独自の商品開発で自主財源を増やし、福祉や教育を自ら充実させていきました。

そして、自主財源が増えた結果、集落の全世帯にボーナスが配れるほどに！

逆境を逆手に取る愉快的発想、したたかなビジネス感覚、人の輪の底力、リーダーの苦勞と献身、そして住民の笑顔。

そんな、地方のある小さな集落が再生を果たした12年の記録です。

◆柳谷集落の活動記録◆	
平成9年5月	カライモ生産活動。 わくわく運動遊園建設 異郷からのメッセージ放送開始
平成10年4月	活動拠点「わくわく運動遊園」完成 高齢者対象のリハビリコースの設備
平成11年12月	通学路での「おはよう声かけ運動」開始
平成12年4月	土着菌製造・活用の開始
平成12年5月	小中学生対象に「寺子屋」運営開始 まさかの時の緊急警報装置(介護用)設置
平成13年5月	噴水・ビオトープ等の整備
平成13年11月	石灯籠の整備
平成13年12月	まさかの時の緊急警報装置(煙感知器)設置
平成14年3月	土着菌センター建設 お宝歴史館建設
平成15年8月	柳谷安全パトロール隊の発足 サンセットウォーキング大会の実施
平成15年11月	まさかの時の緊急警報装置(防犯ベル・全戸)設置
平成16年3月	焼酎「やねだん」開発
平成16年5月	柳谷未来館建設・手打ちそば食堂の開業
平成18年1月	土着菌による足浴オープン
平成19年11月	第一回 故郷創世塾 開講
平成20年5月	めったに見られない芸術祭inやねだん 開催



今回は参加者同士の対話とあわせて、県生涯学習課 渡部先生の講話やDVDを見ながらの学びの場となりました

先進事例を学ぶ！

8月8日(土)、町民交流センター小ホールを会場に「おいらせの学びMIRAIカフェ」第3回が開催され、14名の参加者が集まりました。

第1回、第2回では、「おいらせ町のありたい姿」と「おいらせ町の良いところ、残念なところ」について、語り合いました。いよいよ具体的な取り組みについて考えます！…といきたいところですが、その前に「住民自治」や、地域づくりの先進事例を参加者同士で学び合うことも大切で、これまでのワールドカフェによる対話にプラスし、学習から生まれる新たな知見を参加者全員で共有しました。

「住民自治」講話

助言者の県生涯学習課 渡部靖之先生から「住民自治」について、次の3点を軸に講話をしていただきました。

①『住民こそ、まちづくり・地域づくりの主役』

自治体の主役は住民であり、

①DVDを視聴した感想」

▼笑顔が多い▼まとまりやすい人数▼リーダーシップと人柄と協働による物造りが生産性を生み、自主財源と若者のUターンで人口増に▼すばらしいリーダー(リーダーシップ)だと思う▼高齢だけどエキスパートが多い

②「先進事例の成功理由は？」

▼地域の問題点を皆で考えて解決していく▼地域にもともとある財産を活かしている▼世代間交流になっている▼個人の持つ特性、能力が活かされている

③「おいらせ町に活かせる点は」

▼技術を持つている人を活用する為活動する場と機会を作る▼各地域で活動する▼リーダーの存在↓人が集まる事↓地域の宝を探す↓それをどう活かすか▼MIRAIカフェの必要性有り

次回は、いよいよ具体的な取り組みを考えます。これまでのMIRAIカフェを振り返りながら、テーマを絞って話し合います。次回もますます有意義な時間になりそうです。

公共とは行政だけが担うものではなく、住民も担い手である。行政と住民の役割分担が明確になっていけば協働といえる。

②『地域づくりにおける「学び」の意味』

地域づくりは人づくり。学習は「気づき」から始まり、「教える」「教えられる」の関係ではなく「学び合い」の関係から人づくりにつながる。

③『つながり、ネットワークの大切さ』

地域のつながりとは人と人とのつながりであり、その媒介となるのがボランティア活動。大人がつながる力を持ち、子どもたちのつながる力を社会全体で支えよう。

「やねだん」DVD視聴

地域づくり先進事例の紹介DVD(※左ページ上参照)を見ながら学習しました。約60分の映像を見た後に、グループに分かれて感想やおいらせ町に活かせる点等について話し合いました。

おいらせの学び MIRAIカフェ

住民
ワーク
ショップ